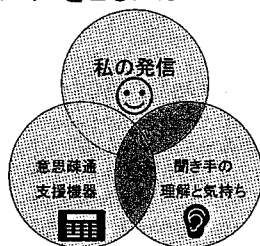


意思疎通 支援機器

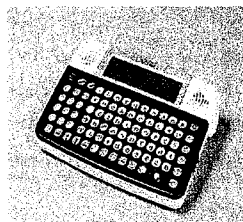
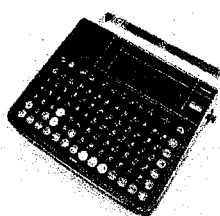
言葉の橋

コミュニケーションをとるには...



この3つがとても重要です

○携帯型意思伝達装置



意思疎通支援機器 使用の経緯

当初は指差しで使うタイプの文字盤(五十音順に文字を紙に印刷した物)を使用していたが、言語のリハビリにてトーキングエイドを使うようになる。

その後...メーカー側のiPadへの移行が進むにつれて、トーキングエイドのサポート自体が中止となる。手、指にも麻痺がある私にはiPadでの操作は難しく、Blue toothマウスが使えるタブレットアプリを探すことに。

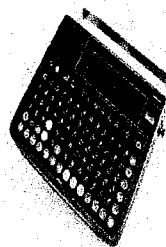
タブレットのトーキングアプリをいくつか試し、現在使用しているGoogle Playのトーキングメイトにたどり着いた。

①意思疎通支援機器

今はトーキングメイトを主に使っていますが、他の意思疎通支援機器やトーキングアプリもいくつか使ってきました。

使用説明や、実際私が使った感想も含めて、まずはいくつかご紹介したいと思います。

○トーキングエイドIT



ゲーム業界大手のナムコが開発した携帯型意思伝達装置。

端末には、50音とプリセットメッセージが並べられたボタンがあり、押して入力することで会話やメッセージを表示、発音することができる。機種によっては、よく使う文をキー登録できるほか、予測変換やオートアンサー機能もある。

○ペチャラ

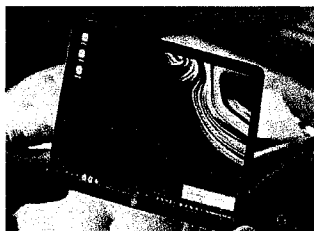


使い方はトーキングエイドとさほど変わりはないが、トーキングエイドに比べて使用方法がわかりやすくなっていると言われている。
重量も従来のトーキングエイドよりも軽く作られていて持ち運びやすい。
また、バッテリーを充電して使用するタイプだったトーキングエイドに対し、ペチャラは充電式バッテリーに加え、電池での使用も可能となっている。
音声録音機能付き。

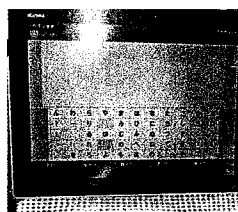
両機の使用感

- ・手、指に麻痺が強いので入力にくい
そのため会話に時間がかかる
- ・ボタンの穴に爪をひっかけて剥がれたり割ったりしてしまう
- ・本体に紐をつけて首から下げて使用していたが、重い
- ・画面が小さく見づらい
- ・ネットなどから文章をコピーできない
- ・壊れると専門機関に修理を依頼しなければならない
- ・打っている最中のミュート機能があったのは良かった

○トーキングアプリ

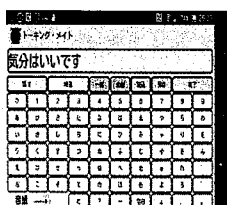


○かなトーク



タブレット端末で使えるアプリ「かなトーク」。
見ても通りシンプルなつくりとなっているため、使いやすい。
日常生活用具の給付対象のiPhoneでは、Bluetoothマウスが使用できないので、自身で端末を用意しなければならない。

○トーキングメイト



こちらもアプリです。
タブレットの場合は500円で購入可能。
実際に今私が使っているのがこのアプリ。
現在はアップデートされ、打った文字を登録、呼び出しができるようになっている。

アプリの良いところ

- ・マウス操作で文字入力ができる
- ・端末本体が軽い
- ・スマホ用のモバイルバッテリーが使える
- ・ネットから文章を拾える
- ・トーキングアプリの種類や声の種類が多い
- ・画面が大きくて綺麗で見やすい
- ・修理も近くの携帯ショップで対応可能
- ・通常のスマホとしてもあわせて使える

実は不便なことも多いのです...

トーキングメイトの場合だと、使える端末を選ばなければならない、アップデート時の不具合などに左右されやすい。

ミュート機能がないため、打っている途中に話す内容を予測されて、誤解させてしまうこともある。

発音機能があっても、細かい音のニュアンスなどは伝わらない。

「あ」「い」「う」「え」「お」などの小文字がない。

ごく一部の紹介となりましたが、私同様、言語障害のある方もそれぞれが使いやすいものを選び、コミュニケーションをとっています。

ただ、もともとできているものから選んで使うということは、その型に自分をはめる、寄せる、ということなのです。

今でこそ私はトーキングメイトを使っていますが、それが私にとってもっとも使いやすい。ということではないのです。

それぞれのニーズに合ったもの。とは程遠いように感じています。

②私の発信

実際に意思疎通支援機器を使っていて、私が困っていること。

⇒「スピード」文字を打っている途中に量みかけのように話す人や威圧的に話されると、返す暇もなく委縮してしまう。

⇒「先読み」会話の最中にタブレットをのぞかれたり、文字音で先読みされると、意図しない解釈をされてしまうことがある。早とちりさせてしまい、不快に思わせてしまうこともあり、そうすると更に訂正することを諦めてしまう。

⇒「表情や態度」会話に時間がかかるため、話しかけたときに面倒な顔をされてしまうことがある。そのためか会話をする前にまず相手の機嫌をうかがうようなこともあった。

⇒「急いでいるとき」会話のスピードが遅いため、トイレに行きたいなどの急いでいるときに遅れてしまう。他の人に遠慮して、文字を打つ前に諦めて譲ってしまう。

③聞き手の理解と気持ち

・会話のペースが遅い、時間が奪われているように感じる
→急いでいるときなどは特にそう感じてしまうと思います。

・当事者側にも時間を節約する配慮があってもいいのでは？
→よく使う単語や文の登録など...

・じつと打ち終わるのを待たれるのもプレッシャーなのではないか
→どこを見ながら待てばいいの...

今挙げたもの以外にもさまざまな感情があると思います。

私としてはやはり『会話という意味でリアルタイム』で言葉を発することにその意味があるのではないかと考えています。

自分が今、その時間に感じたことをそのまま伝えるということを大事にしたいのです。

時間の感覚、価値観、人によってどう感じるか、何を思っているのかはそれぞれだと思います。

④私の発信 最後に...

お互いに相手の気持ちを考え、理解し、心を寄せ合っていく。
それぞれのより良いやり方や関係を突き詰めていくには、会話が
必要だと考えています。

会話をするための会話。
言語障害がある方に会ったらず、その人と話し合って、お互いの
良い進め方を探してください。

こんな時どうする？は、きっとその方が知っているはずです。

実はこれまで皆さんにお伝えしたことが
まるっと全て、「私の発信」なのです。

先ほど私が困っていることをいくつか述べましたが、全てがその時に
当てはまるものではなく、関係性や状況によっては、先読みなども
必要な時があるかもしれないので、話すことをためらわず、
お互いに確認していくことが大切だと思います。

それぞれの「私の発信」と「あなたの発信」で、きっと解決すること、
関係が良く変わることがたくさんあると思っています。

言語障害があることによって、コミュニケーションを取ることに悩んでい
る方もたくさんいます。

お互いが当たり前で発信したり、気づいたりできる社会になってほしい。
そんな気持ちを知ってもらいたくて...そんな『私の発信』です。

最後に質問などありますか？

ご清聴ありがとうございました(^^)／